



## 間質性肺炎への道

吉澤 靖之

東京医科歯科大学 学長

学園紛争の中1969年に大学卒業後、1年半後に大学医局を辞し、都内の病院に入職した。1971年、第一回肺線維症研究会に出席したが、当時の権威ある先生方は炎症の治癒過程で線維化が起こるが、原因は不明であると議論をしていた。しかし私は原因不明で病気が起こることに疑問を持った。

1977年に当時厚生省特定疾患「肺線維症」の報告で調査研究班本間らが危険因子としてインコ飼育、木くず(大工)、農薬類(農夫)、石屋、石炭夫、鋳物工場を報告した。一方私は1978年過敏性肺炎の大御所である Fink の所で急性鳩飼病を観察させて貰っていたが、同じ Wisconsin 州の Marshfield 研究所(主に農夫肺を研究)で線維化した進展例を経験した。ここで過敏性肺炎は慢性化すると線維化をきたすと確信した。

以後、慢性過敏性肺炎を研究することになったが、先ず過敏性肺炎の歴史から話をしたい。

過敏性肺炎は、当初は職業と関連する急性の肺疾患として、農夫肺(1924)、麦芽作業者肺(1928)そして楓皮病(1932)などが以前より知られていたが、1959年 Pepys が麦芽作業者肺の患者血清中に抗アスペルギルス抗体、引き続き農夫肺患者血清中に好熱性放線菌に対する沈降抗体を証明したことからアレルギー疾患として認識されるようになった。その後、職業に由来しない1965年の Reed らによる鳥飼病(伝書鳩飼育はほとんどが趣味)の報告や Fink らから空調病などが報告されるようになった。一方、抗原に対するリンパ球の反応は、末梢血では Caldwell が1973年に鳩飼病でマクロファージ遊走阻止因子の産生、翌年 Hansen がリンパ球増殖試験の陽性を報告した。更に肺局所での免疫反応は気管支肺胞洗浄液中リンパ球を用いて Schuyler が1978年鳩飼病で報告した。以上から過敏性肺炎における免疫反応の成立が抗体と感作リンパ球の両面から確立した。

過敏性肺炎の歴史は急性過敏性肺炎から始まり、慢性過敏性肺炎は線維化した農夫肺が職業病として報告されており、以後も散発的に症例報告がみられた。免疫学的検査で診断が確定した多数例の検討は1993年の Selman の慢性鳥飼病の予後、および同年吉澤らの主として慢性鳥飼病の BAL 所見の報告が始まりである。

本講演では、過敏性肺炎の歴史および私が何故、慢性過敏性肺炎に注目したか、開胸肺生検から胸腔鏡下肺生検の時代変遷の中で病理像をどう予測したか、CTの進化に伴って画像所見をどう考えたか、など特発性肺線維症や特発性非特異性間質性肺炎を意識しつつ報告したい。

最後に過敏性肺炎の将来の課題についても言及したい。